

# ほほえみの国 タイ王国 天使の都 バンコク

～ バンコク日本人学校での教育実践から ～

前バンコク日本人学校 教諭

現室蘭市立武揚小学校 教諭 萩原 享

## 1 はじめに



本校は、1956年（昭和31年）に在タイ日本国大使館附属日本語講習会として創設された世界で一番古い日本人学校です。1974年（昭和49年）からは泰日協会が設置者となり、泰日協会学校（通称バンコク日本人学校）となりました。児童・生徒の数は2411名（2007年10月現在）となり、規模の上でも世界で有数の日本人学校となっています。52年の歴史や規模だけでなく、内容の上でも世界に誇れる学校になることを目指して理事会、教職員一同努力をしています。また、2009年4月、チョンブリ県シラチャ市に泰日協会学校シラチャ校（通称シラチャ日本人学校）の開校を予定しています。

※ 泰日協会とは、1928年に設立された、「日泰両国の文化の融合と、両国の友好と福祉を増進する」ことを目的にする友好団体です。本校保護者は、泰日協会の会員又は賛助会員になることとなっています。



## 2 タイ王国の様子

### はじめに

プーミンポン国王（ラーマ9世）

立憲君主制

国名：タイ王国

首都：バンコク

通貨：バーツ（1Bおよそ3.5円）

タイの人たちは、今の国王様を非常に尊敬し、愛しています。そのことはクーデターでの出来事からよく見て取れます。王様が「もうそこまでにして、このクーデターをやめなさい。」と言うと混乱が治まってしまうのですからすごいものです。異国の民である私も尊敬するくらい素晴らしい王様です。

立憲君主制の下タイ王国は、政治・経済が非常に安定している国といえます。また、日本とタイの関係は長く友好関係（日泰修好121周年）を保っています。その上で日本の企業が多く進出してきました。その多くは精密機械をつくる工場が多いです。そこでは、日本で販売されているホンダフィットアリアやデジタル一眼レフ・ニコンD300、カーオーディオのアルパイン、様々なレンズ等などが生産されています。そのほか、多くの有力商社も入ってきています。

### ① 地理

タイはインドシナ半島のほぼ中央（北緯5～21度・東経97～106度）に位置し、西と北にミャンマー、北東にラオス、東にカンボジア、南にマレーシアと国境を接しています。

国土面積は513,115平方キロメートルで、日本の約1.4倍、フランスとほぼ同じ大きさに当たります。この国土は①中部平野地域、②東部

海岸地域、③東北部高原地域、④北部及び西部山岳地帯、⑤南部半島地域の5地域に区別され、その大半が平野部となっています。また、国土面積の約40%を農地が占めています。

チャオプラヤー河とメコン河、2つの大河により、肥沃な国土は農業国としてなりたっています。東南アジアでは唯一、飢饉や植民地の経験もなく豊かな国なのです。そのためか、のんびりとした人達が多く、温和で争い事は好まないです。昔から国の独立を維持し、国に対する尊厳は大きく、プライドも高く対面を重んじる国民性があります。

## ② 歴史

タイは昔、シャムの国と呼ばれていました。シャム（サイアム・サヤムとも聞こえます）の国が、いつ頃から存在したか定かではありません。ですが、その存在は、カンボジアにあるアンコールワットの回廊（12世紀に完成された回廊）に見ることができます。

当時のカンボジアは、クメール文化が繁栄しており「サヤム」は、クメール語で浅黒いとか、黄金とかの意味をもち、クメール人（カンボジアを中心とした王朝）はタイ国を「サヤム」と呼んでいたようです。ところが、シャム人（タイ人）は自分の国を「サイアム」とは呼ばずに、「タイ」という名で呼んでいました。（一般にタイ語で、【ムアング】”国”【タイ】”自由”⇒自由な国タイとなります。）特に、タイの人たちは、自分の国を呼ぶのに、その時の首都の公式名で呼んでいました。スコータイが首都であった時代（1238-1378）には、スコータイ王国と呼ばれ、さらに、アユタヤが首都であった時代（1350-1767）はアユタヤ王国でした。この時代（17世紀）になると、日本（朱印船貿易や山田長政の武勇伝で知られる時代）やヨーロッパの国々でも、タイの国を「シャム」と呼んでいました。

シャム王国から、タイ王国の正式国名になったのは、バンコク王朝（チャクリー王朝）の時

代で、ラマ4世モンクット王（1851-1868）になってからです。

## ③ 宗教

タイの国教は上座部仏教（小乗仏教）で、国民の9割以上が仏教を信仰しています（タイ全国の仏教寺院数は約3万、僧侶は約29万人）。この他にイスラム教・キリスト教・ヒンズー教・シーク教・山岳民族固有



の宗教等があり、憲法により信仰の自由は保障されています。

タイの子供たちは、幼児期から親や兄弟、友たち、ならびに僧侶から仏教の教えを教わり、さらに、学校での徳育につながっており、気軽に挨拶のできる人柄を形成していきます。頑強でごついお兄ちゃんの合掌【ワイ】も様になりますし、小さな女の子の合掌【ワイ】も、たまたま可愛いものです。

## 3 バンコク日本人学校の様子

校訓

広い心で  
明るく なかよく たくましく

教育目標

豊かな広い心を持った子どもを育てるために

- (1) 思いやりのある子 (徳育)
- (2) 創造性を発揮し、積極的に学ぶ子 (知育)
- (3) 心身の健康をつくる子 (健康)
- (4) 国際性豊かな子 (国際性)



学校行事スケジュール

思い出がいっぱいのイベント

◎両学部共通行事

○小学部行事

●中学部行事



<b>4</b> <b>APR</b>	◎始業式・入学式 ◎学年保護者会 ◎新入生を迎える会
<b>5</b> <b>MAY</b>	◎緊急一斉下校訓練 ○小5臨海学校 ●中学部実力テスト ○小学部個別面談
<b>6</b> <b>JUN</b>	○小6修学旅行 ○小1～4校外学習 ●中学部校外学習
<b>7</b> <b>JUL</b>	●中学部総合考査Ⅰ ●中学部個別面談Ⅰ ●中学部交流学習会
<b>8</b> <b>AUG</b>	
<b>9</b> <b>SEP</b>	○小学部交流学習会 ●中学部単元テスト ●中3実力テスト ●中1国際理解講演会 ●中学部合唱コンクール
<b>10</b> <b>OCT</b>	○小3・4・5校外学習 ●中学部実力テスト
<b>11</b> <b>NOV</b>	◎大運動会 ○小2校外学習 ●中学部総合考査Ⅱ
<b>12</b> <b>DEC</b>	●中学部個別面談Ⅱ ○小1校外学習 ●中学部卒業生を送る会
<b>1</b> <b>JAN</b>	○小6校外学習 ●中2修学旅行 ●中1・2実力テスト ◎まごころ交流会
<b>2</b> <b>FEB</b>	●中学部総合考査Ⅲ ○6年生を送る会
<b>3</b> <b>MAR</b>	◎卒業式 ◎修了式



## 特色ある教育課程

### (1) 日常の中の特色ある教育活動

本校は、同一敷地内に小学部・中学部を併せ持つ大規模在外教育施設です。また、タイ国学校法に基づくタイの私立学校でありながら、タイ文部省から日本の文部科学省が定める「学習指導要領」に準じて教育課程を編成することが許されています

### 土曜登校日

本校では、小学部5年生から中学部2年生は月1回、中学部3年生は月2回の土曜登校日を設定し、授業時間を十分確保するように努めています。

### 小中併設を生かした指導

小学部では、情操教育に力を入れ、全学年に音楽科の専科教員を配置しています。また、高学年では小中学部間のスムーズな接続を目指し、次のような取り組みを通して、学力向上に努めています。

#### ○小学部5年生

理科・図工・家庭科にも専科教員を配置しています。また、算数科では「コース選択制学習」、理科では「単元選択制学習」を導入して、個に応じた指導の充実を図っています。

#### ○小学部6年生

教科担任制を導入して、より専門的な学習指導を展開しています。算数科では、「TT（ティームティーチング）・少人数指導」を取り入れ、主体的な学びの展開を図っています。また、英会話の授業においても、中学校での英語指導の経験をもつ教員が授業に加わり、安心して授業が受けられるようにしています。

#### ○中学部1・2年生

数学科において、「少人数指導」を導入し、基礎・基本の定着と個に応じた指導に力を入れて、学力の向上を図っています。

### 海外(タイ)ならではの指導

小学部1年生から5年生まで、週1時間「国語特別指導」を実施しています。6年生



から中学部3年生については、朝自習の時間などを使って「国語特別指導」を実施しています。主な内容は、漢字やことばのきまりなど言語事項の復習や作文など表現力の向上をねらいとしたものです。また、「朝の読書タイム」を設定し、本に親しみ、進んで読書に取り組む態度を養っています。

一方、常夏の気候を生かし、毎週1時間の水泳授業を実施しています。担当する教員と水泳コーチと一緒に指導します。したがって、本校の子ども達には高い泳力を培うことができます。その泳力の発表の場として、小学部5年生では、フアヒン臨海学校で遠泳を行います。



### (2) 異文化コミュニケーションと

#### I T教育

世界で活躍できる人材の育成を目指し、小学部1年生からタイ語、小学部3年生から英会話と語学教育にも力を注いでいます。また、併せて情報活用能力の育成を図るI T教育も推進しています。

### タイ語

タイ文部省よりタイ語の授業が義務付けられています。本校では、小学部1年生から週1時間実施しています。

日本語に堪能なタイ人教員により、かた

かな表記にしたタイ語の教科書を使って、会話を中心に指導します。

なお、タイ語をより深めたい生徒については、中学部の選択授業でタイ文字を習います。



## 英会話

小学部3年生以上で、「総合的な学習の時間」の枠を使い、週に2時間、英語のネイティブスピーカーにより、英会話を指導します。会話力の向上を図るため、少人数編成されたクラスを中心に学習します。

テキストは、イギリスのオックスフォード大学が編集したものを使用しています。

また、日本人会・PTAのご配慮で、英語検定を本校で受検できるようになり、たくさんのお子・生徒が挑戦しています。



## IT教育

充実したITルーム(4教室)を活用して、コンピューターや情報通信教育などの情報手段に慣れ親しみ、情報を取捨選択したり、発信したりする能力を育てています。例えば、小学部5年生では、臨海学校や郊外学習のことをパソコンを使って、プレゼンテーションをしたり、ホームページを作成したりしています。中学部では、「総合的な学習の時間」、

技術家庭のほかに、教科や選択教科など多様な場面で、パソコンを活用した授業が実施されています。



## (3) 国際理解・タイ国理解そして「自分さがしの旅」

ほとんどの子ども達は、長い人生からみれば、タイにいるのは一時的です。しかし、この時期に外国で暮らすことは、人生の大きな糧となり、大きな指針となります。タイを理解すること——それは国際理解に通じ、日本文化を見直すことにもなります。また、それらの見聞は、「日本人とは」、「国際人とは」を考える素材となり、自分を見つめること、自分の在り方を探ることにもつながります。



## 修学旅行(小6・中2)

小学部6年生はチェンマイに行き、ドイステープ寺院、エレファントキャンプのほかに現地校との交流や、農家訪問などがあります。

中学部2年生は、世界遺産のスコタイ遺跡、少数民族の学校、芸術学校などタイ北部を訪問します。

## ファヒン臨海学校(小5)

タイ有数のリゾート地であるファヒンで2泊3日の臨海学校を行います。水泳授業の成果を発表する遠泳は伝統行事です。ファヒン特有の白い砂を使った「砂の芸術祭」は子ども達の楽しみです。

## 交流学習会

毎年中学部が1学期に、小学部は2学期に近隣のタイの学校と交流します。たどたどしいタイ語や英語に、身振り手振りをまじえて、自分の思いを伝えます。子ども達は、ものの考え方の同じところや違うところに気付き、心を大きく成長させます。



## 校外学習・国際理解講演会

校外学習は、全学年で行ないます。小学部1・2年生は生活科の一環とし



て、小学部3年生から中学部は社会科や「総合的な学習の時間」の一環として、タイの伝統文化に触れる学習や、保護者の働く日系企業や政府開発援助などで作られた公共施設を訪問します。

国際理解講演会は、中学部1年生を中心に、タイの第一線で活躍されている日本人の話をお聞かせします。

これらの学習を通じて、国際人とは何か、国際理解とは何かを考えるとともに、自分自身の在り方、生き方を探り、日本人としてのアイデンティティを培っていきます。

## 充実の進路指導

生き方を見つめ、

未来を切り開く進路指導

## キャリア教育の推進

子どもたちは、たくさんの人たちと出会い、様々な経験を積み重ねる中で、「あんな人になりたい」「あんなことができたらいいな」とあこがれを持ちます。



本校中学部では、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力やしっかりとした勤労観、職業観を身につけて欲しいと考え、進路啓発講演会や職場訪問学習など、職業を通して自己実現を果たしている多くの方々との触れ合いの場を設けています。

## 進路相談室の設置

本校は高等部を併設していません。中学部卒業後、様々な進路へ向かって旅立って行きます。中でも、学校選択は人生の一つの岐路であり、



未来を切り開く第一歩です。そのためのお手伝いをするところとして、本校では事務棟2階に進路相談室を設置しています。また、様々な個人相談に対応するために、進路相談担当者が常駐しています。

## 主な進学先（中学部から）平成18年度

- （中学部）・日本国内の国・公立高校・私立高校
- ・海外の日本の高校・タイ国内外のインター校
- （小学部） ・本校中学部
- ・日本国内の国・公立・私立中学校